

オンデマンド型授業グッドプラクティス集

2021年度の授業方針として、大人数科目はオンデマンド型での開講が原則/推奨となっています。オンデマンド型授業とは、Loyola や Moodle への教材提示、学生による教材を利用した自学修、リアクションペーパーやレポートなどの課題の提出・小テストの受験、およびそのフィードバックや質問に対する回答などで構成される、非同時双方向型の遠隔授業をいいます(双方向型でない非同時授業は放送授業または通信授業として扱われ、上智大学で実施することは認められていません)。

このグッドプラクティス集は、2020年1月18日(月)～29日(金)に実施した上智大学教員対象のオンライン授業アンケートにおいて「オンライン授業で工夫していること」の自由記述の中から、オンデマンド授業についての事例をまとめたものです。オンデマンド授業の実施の際の参考にご活用ください。

目次

1	Moodle の活用.....	2
1.1	「AMS プレイヤー」による動画教材の共有.....	2
1.2	「フォーラム」による学生同士のディスカッション.....	2
1.3	「小テスト」による理解度の把握.....	2
1.4	「課題」によるリアクションペーパーの提出とフィードバック.....	3
1.5	「フィードバック」による授業アンケート.....	3
2	Moodle 以外のツールの利用.....	4
2.1	Office 365 や Google ドキュメントなどのオフィススイートの利用.....	4
2.2	Microsoft Forms や Google フォームなどのフォームツールの利用.....	4
3	オンデマンド教材作成の工夫.....	4
3.1	囃家や幼児向けテレビ番組をイメージして音声教材・動画教材を作成.....	4
3.2	自動読み上げを利用して音声教材を作成.....	4

1 Moodle の活用

1.1 「AMS プレイヤー」による動画教材の共有

動画配信プラットフォームとしては YouTube がもっとも有名で、授業で利用されている方も多かと思います。しかし、配信の際に「限定公開」を選んでも、動画 URL を知っていればだれでも動画を視聴することができます。これは、授業目的の公衆送信に該当しなくなってしまうおそれがあり、著作権料を別途支払う義務が生じてしまう可能性があります。

Moodle に組み込まれている AMS プレイヤーは、動画の視聴をコース登録者に制限することが可能な上、コース登録者の視聴履歴を確認することや、視聴履歴に応じて評定することができます。また、教員が設定をオンにすれば、学生が自分の理解度に応じて動画の再生速度を調整することができる機能もあります。学生アンケートの結果からは、理解が難しい箇所をゆっくり何度も再生することで理解が深まった、という学生の声もありました。

AMS プレイヤー導入直後は動画の解像度が低いという問題もありましたが、現在は「(静止画中心) |SingleBitrate_300kbps-720p」のモードを選択することで解消されています。

AMS プレイヤーの具体的な操作方法は Moodle トップページにある「01.AMS プレイヤー教員操作編.pdf」をご参照ください。

1.2 「フォーラム」による学生同士のディスカッション

「フォーラム」を利用した学生同士の非同時のディスカッションを実施している事例がありました。非同時のアクティブ・ラーニングとしてこの機能を活用することができます。

フォーラムでは、スレッドの一部としてコメントを投稿することで、学生同士または学生と教員が意見交換することができます。教員はフォーラムの投稿の採点や評価をすることもできます。また、学生に相互の投稿を評価する機能もあります。

✓ 参考：フォーラム活動 – MoodleDocs

<https://docs.moodle.org/3x/ja/%E3%83%95%E3%82%A9%E3%83%BC%E3%83%A9%E3%83%A0%E6%B4%BB%E5%8B%95>

1.3 「小テスト」による理解度の把握

オンライン授業に関するアンケートでは、教員から「オンライン授業では学生の理解度が把握しづらい」という声を多くいただきました。小テストによる小刻みな理解度の把握は、学生の学修状況の把握に非常に効果的です。Moodle の小テスト機能を使って、下記のような取り組みをしている事例がありました。

- 講義動画を視聴してからでないと小テストが受験できないようにする（設定画面の「利用制限>評定」から設定できます）。

- 最高3回まで受験でき、最高得点が記録されるようにする（設定画面の「評点」から設定できます）。
- 「数値問題」を出題する際、問題文内の数値をランダムにする。
- 「組み合わせ問題」を出題する際、問題文をシャッフルする（「組み合わせ問題」を利用すると、回答の選択肢は常にシャッフルされます。選択肢をシャッフルしたくない場合には「ランダム記述組み合わせ問題」を利用すると便利です）。

✓ 参考：小テスト活動 – MoodleDocs

<https://docs.moodle.org/3x/ja/%E5%B0%8F%E3%83%86%E3%82%B9%E3%83%88%E6%B4%BB%E5%8B%95>

1.4 「課題」によるリアクションペーパーの提出とフィードバック

「課題」を、レポートの提出以外に、毎回の授業のリアクションペーパーの提出に利用することで、学生の理解度を把握しているという事例がありました。「オンラインテキスト」を利用すると、Moodle内で簡単にリアクションペーパーの内容を確認することができます。オンラインテキストによって提出を求める場合、環境によってテキストボックスのサイズが変化するため、行数で指定するより文字数で指定したほうが学生にとって混乱はないかもしれません。

また、提出されたリアクションペーパーに対する評定や、個別または全体へのフィードバックすることで、双方向のやり取りを実現できます。評定やフィードバックを EXCEL で管理し、一括で Moodle に読み込むことも可能です。

学生を対象としたアンケートでは、「簡単なコメントでもいいので教員からのフィードバックがほしい」という声が非常に多くありました。たとえば EXCEL 上で評定を入力し、評定によってコメントを「大変よくできました」「よくできました」「がんばりましょう」のように自動で変化させ、それを Moodle に反映させることも可能です。

✓ 参考：課題活動 – MoodleDocs

<https://docs.moodle.org/3x/ja/%E8%AA%B2%E9%A1%8C%E6%B4%BB%E5%8B%95>

1.5 「フィードバック」による授業アンケート

学生からの授業に関するフィードバックを得るのに、Moodle の「フィードバック」を利用している事例がありました。「フィードバック」は小テストツールとは異なり、採点されない質問を作成することができます。ユーザ名を記録するかどうかを選択することができますので、匿名でアンケートを実施することが可能です。また、記名式にすることによって、アンケートへの回答状況を評価対象にする事例もありました。

複数の質問から構成されるアンケートは「フィードバック」を利用しますが、単一の質問の簡単なアンケートには「投票」モジュールを利用することもできます。

- ✓ 参考：フィードバック活動 – MoodleDocs

<https://docs.moodle.org/3x/ja/%E3%83%95%E3%82%A3%E3%83%BC%E3%83%89%E3%83%90%E3%83%83%E3%82%AF%E6%B4%BB%E5%8B%95>

- ✓ 参考：投票活動 – MoodleDocs

<https://docs.moodle.org/3x/ja/%E6%8A%95%E7%A5%A8%E6%B4%BB%E5%8B%95>

2 Moodle 以外のツールの利用

2.1 Office 365 や Google ドキュメントなどのオフィススイートの利用

学生同士のグループワークなどで、オンラインで共同編集が可能なオフィススイート（ドキュメントファイルやスプレッドシート、プレゼンテーション）を効果的に利用している事例がありました。

2.2 Microsoft Forms や Google フォームなどのフォームツールの利用

授業改善のためのアンケートの実施に、外部のフォームツールを活用している事例がありました。Moodle の「フィードバック」は作成することができないリッカート尺度の質問を作成することができる、というメリットがある一方で、記名式にした場合に学生番号や氏名の記入ミスや表記揺れがあり、名寄せに手間がかかる、というデメリットもあります。

また、フォームツールを利用して小テストを実施している事例もありました。

3 オンデマンド教材作成の工夫

3.1 嘶家や幼児向けテレビ番組をイメージして音声教材・動画教材を作成

音声教材や動画教材を作成する際に、ラジオ番組やテレビ番組、有名 YouTuber のチャンネルなどを意識して喋り方や見え方を工夫しているという事例がありました。

3.2 自動読み上げを利用して音声教材を作成

1/26（火）に開催された上智大学 FD フォーラム「オンデマンド授業の可能性と課題ー2020 年度の体験から 講師：遠矢 浩規 氏（早稲田大学 政治経済学術院 教授）」で、自動読み上げを利用した音声教材の作成の事例が紹介されていました。

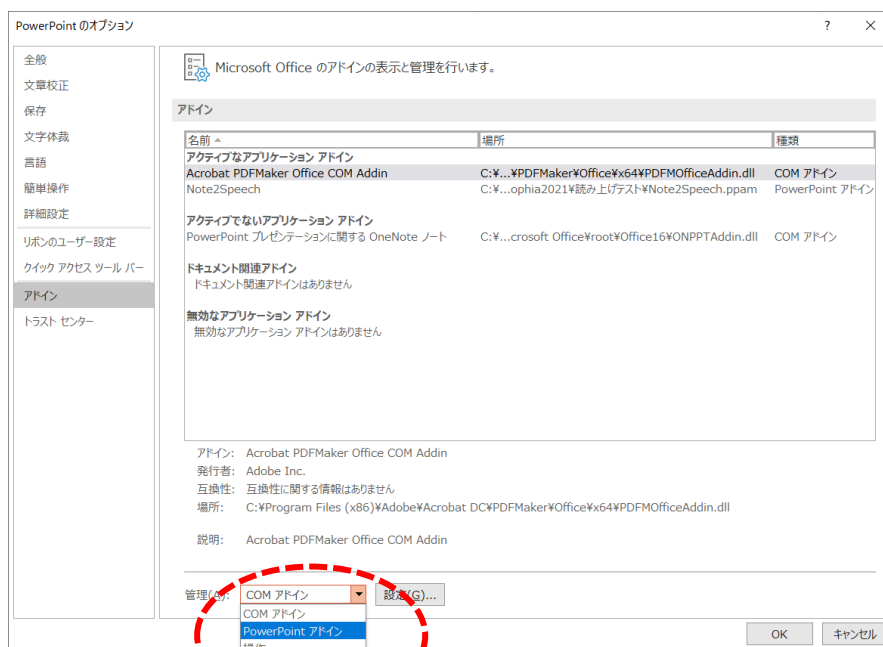
音声読み上げの利用のメリットとして、学生の側からは、速度が一定のために動画の再生速度を調整しても聞き取りやすい、教員の側からは、自分の声を録音しなくていい、教材の修正の際に録画し直さなくてよい、などが挙げられていました。

事例では有料の読み上げソフトが紹介されていましたが、Microsoft の OS に標準搭載されている機能を利用したアドオンをオリジナルで作成しましたので、よろしければご利用ください。

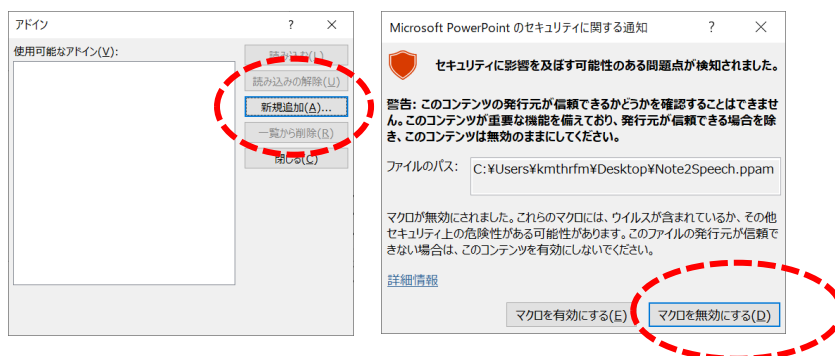
自動読み上げアドイン「Note2Speech」利用方法

アドインのインストール

- ① こちらからアドインをダウンロードして任意の場所に保存してください（要準備）。
- ② PowerPoint を起動して、「ファイル→オプション→アドイン→管理」から PowerPoint アドインを選択して「設定」ボタンをクリックしてください。



- ③ 「新規追加」を選択して、ダウンロードしたアドインを参照し、「マクロを有効にする」を選択して閉じてください。

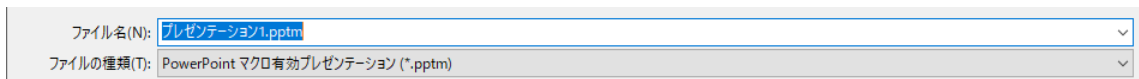


- ④ PowerPoint リボンに「Note2Speech」タブができたことを確認してください。

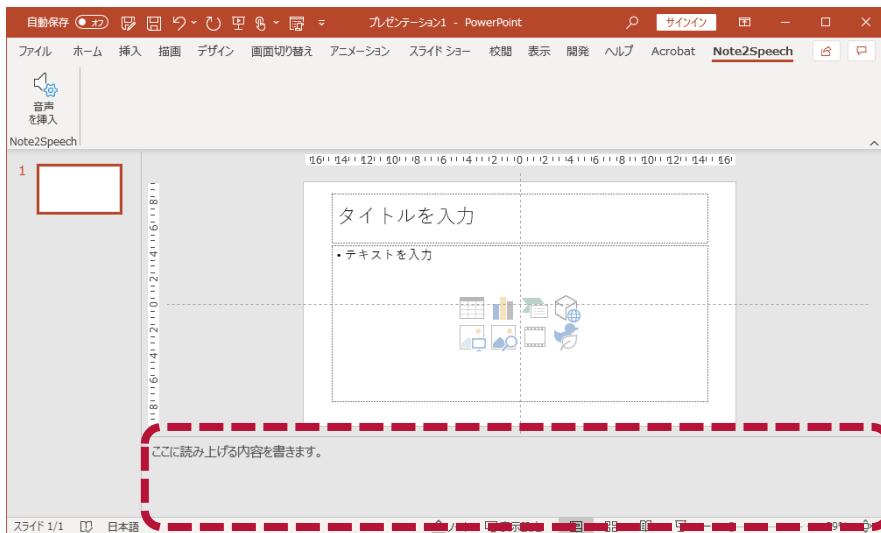


アドインの利用

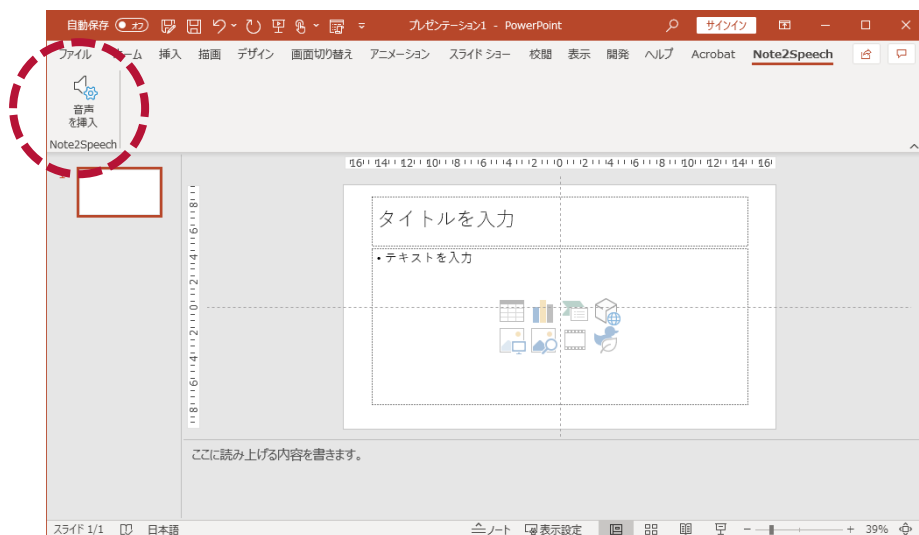
- ① 新規プレゼンテーションファイルを作成し、ファイルメニューから「名前を付けて保存」を選択し、ファイルの種類を「PowerPoint マクロ有効プレゼンテーション (*.pptm)」にして保存します。



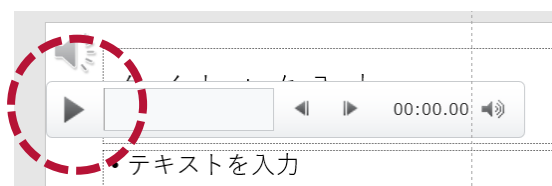
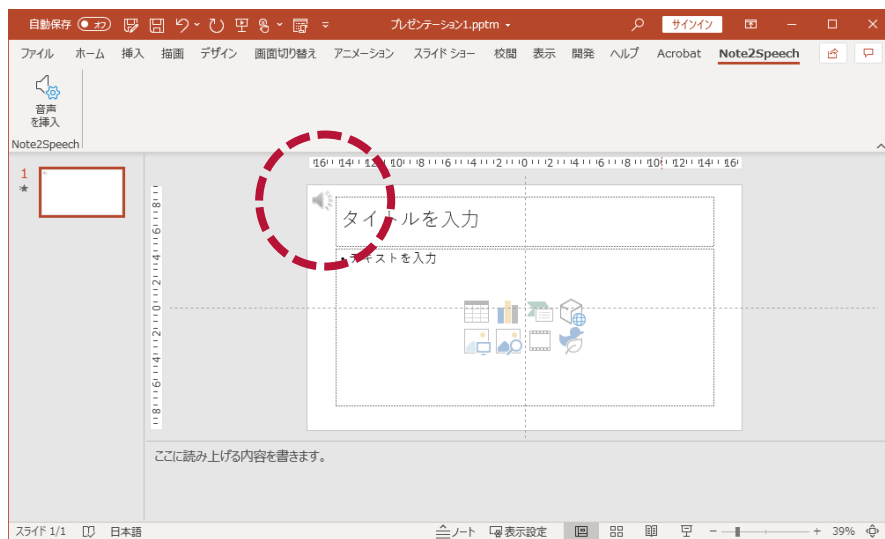
- ② PowerPoint ファイルのノートウィンドウに読み上げる内容を書きます。
読み上げる原稿は一文を短めに、句読点を多めに入れると聞きやすくなります。また、現状では漢字の読み上げの精度があまりよくないため、必要に応じてひらがなで書いてください。



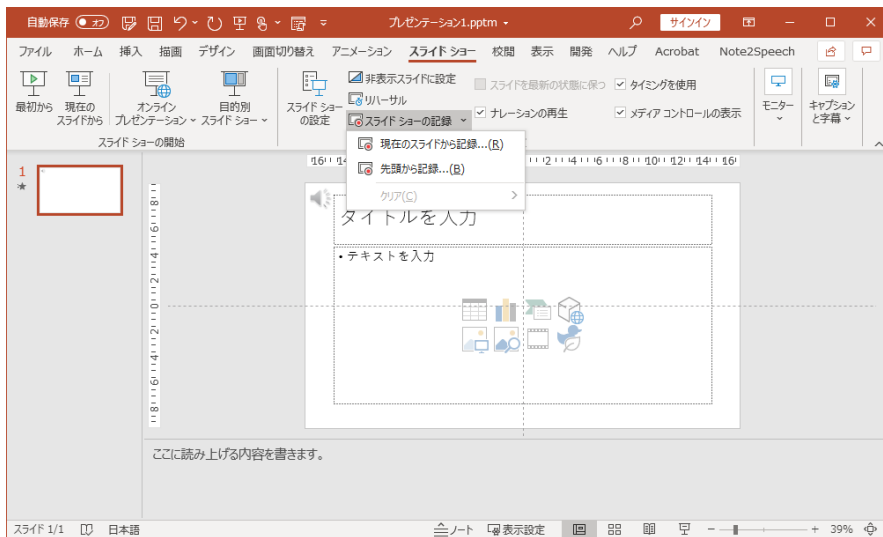
- ③ PowerPoint リボンの「Note2Speech」タブで「音声挿入」ボタンをクリックすると、「Done.」と表示されるのでOKをクリックしてください（エラーが出た場合には、マクロ有効プレゼンテーションで保存されているかどうかを確認してください）。



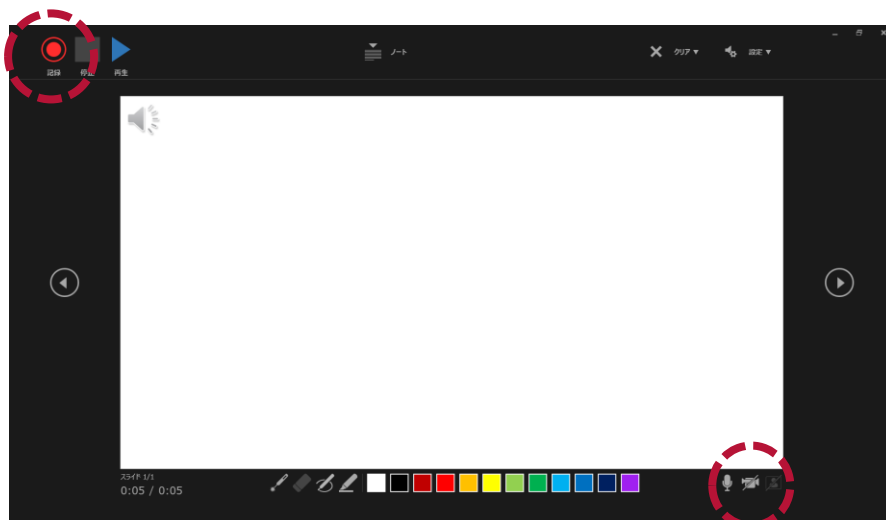
- ④ PowerPoint ファイルを保存した場所に「voice.wav」ファイルが自動生成され、音声ファイルが PowerPoint に埋め込まれます。サウンドアイコンにマウスオーバーすると埋め込まれた音声を再生することができます。



- ⑤ 音声にあわせてアニメーションやスライドショーを記録する場合には、PowerPoint リボンの「スライドショー」タブの「スライドショーの記録」を選択します。



- ⑥ カメラをオフにしてから録画を開始します。



カメラをオフにする

- ⑦ スライドごとに②～⑤を繰り返します。

- ⑧ PowerPoint ファイルを mp4 形式の動画にエクスポートするには、「ファイル→エクスポート→ビデオの作成」を選択し、画質とタイミングの利用を設定して「ビデオの作成」ボタンを押します。ビデオの作成にはかなりの時間を必要とするので、そのままお待ち下さい。

